



あぐりん

発行

河内長野市農業委員会

編集

農委だより企画編集委員会

〒586-8501

河内長野市原町一丁目1番1号

TEL.0721(53)1111

(内線768)

<https://www.city.kawachinagano.lg.jp>
E-mail : noui@city.kawachinagano.lg.jp

農の防人

さかした ち さ
阪下 知佐さん
(加賀田)



阪下 知佐さん

エディブルフラワーやハーブを中心に旬の野菜を自身の力量に合わせた栽培量で、あすかてくるで河内長野店に出荷しています。

J A主催講座の花作り隊に参加したり、先輩出荷者さん達に声かけやアドバイスも頂きながら楽しく出荷の日々を過ごしています。

◆現在は

福祉関係の職を体調不安により休んでいた時期に、母と叔父が耕作していた農地を引継ぐ事になりました。

農業経験が無かったため、市の農業研修講座を受講。小さな種から野菜を育てる感動を覚えて頂きました。

自分らしい作物として『エディブルフラワー』を選び、農業デビューすることになりました。

◆きっかけは

冬本番の寒さを感じ始めた頃に、加賀田にお住まいの阪下知佐さん(59歳)のもとを企画編集委員長の新谷委員と訪ねました。

育てる喜び 笑顔のはじまり エディブルフラワー召し上がれ



◆工夫されていることは

エディブルフラワーは鑑賞目的だけでなく、食べものなので、安全安心な栽培を心掛けています。

使用済みのキノコ菌床と米糠・粃殻で発酵ぼかしを手作りしたり、敷炭や雑草堆肥を利用したり、自然由来の肥料を使います。出来る限り自然に近い栽培をしています。あれこれ構い過ぎず畑の土や生き物たちと共に、作物自身のパワーで育つお手伝いをする感じを大切にしています。

◆ご苦労は

外出が制限されていた時期に自身へのご褒美にエディブルフラワーの鉢植えを購入。家族と一緒に食卓にエディブルフラワーを飾って楽しんで体験を広めたいと思いい、出荷作物に決めましたが、馴染みの無い出荷作物にスタッフさんは、『これは何ですか？花を食べるの？どうやって食べるの？』といった反応でした。お客様も同じ思いなのでしょう。初出荷時は50円でしたが、中々手にして頂けず、売れ



カレンデュラ



エディブルフラワー

◆これからは

季節や自然を感じる畑で、野菜栽培はもちろん、七草探し・ヤマモモの染め物・野鳥や虫観察など、近隣の子どもから大人の方々と『畑でこんな事やってみたい！』を叶えるお手伝いをしていきたいです。

気軽に身近なところから農業デビューして、のんびり一緒に楽しませませんか？

◆農業委員から一言

農地を維持するために始めた農業。無理なくマイペースで興味のあるものを栽培すること。また、市内に直売所があり、出荷することで出会いがあり、楽しみになる。農業は子育てに似ているなど共感する部分が多くありました。受け継ぐ農地を重荷に思いがちですが、食を生む、癒しの場所になります。女性も独自に農業に踏み込んでほしいです。



新谷企画編集委員長(左)、
阪下知佐さん(右)

相続登記が義務化されます

令和6年4月1日（施行日）から、不動産を相続で取得した方は、取得を知った日から3年以内の登記の申請が義務となります。施行日以前に取得した未登記の不動産も施行日から3年以内の登記が必要です。登記申請を怠ると、罰則規定があります。

また、未登記のまま相続が繰り返されると、相続人がどんどん増え、手続きが煩雑になります。次の世代が困らないように適切に相続登記を行いましょう。

まずお近くの法務局へご相談いただくか、QRコードを読み込んで法務省のホームページをご確認ください。



法務省 HP

ホームページはこちらから

昨年11月21日に農業委員会委員8名とJA大阪南高向支店の方等を加えた12名で遊休農地の確認を行う農地パトロールを高向地区で実施しました。
遊休農地は、病害虫の発生、火災や不法投棄等の原因となりますので、周辺の営農環境や地域住民にも影響します。農地の所有者及び耕作者の皆様は、草刈、耕運を行うとともに、農地として適正な管理をお願いします。



農地パトロールの様子

遊休農地解消に向けた確実な取り組みを農地パトロールの実施



スマート農業研修会(アシストスーツ)が開催されました

令和5年11月24日、25日の2日間、キタバあやたホールでスマート農業研修会が開催され、約30名が参加しました。

市では、小山田地区の桃をはじめ、様々な果樹が栽培されていますが、収穫時などに長時間腕を上げ続けて作業するため、高齢化が進む果樹農家の負担が大きくなっています。

今回の研修会では、河内長野市に拠点を置く株式会社ダイドーが「腕を上げた状態を保持するアシストスーツ」と、「荷物を持ち上げる際に足腰の負担を軽減するアシストスーツ」を紹介しました。



ゴムなどを利用して筋肉や関節への負担を軽減するものであり、電気を使うアシストスーツに比べ、価格や軽さの面でメリットがあります。当日はアシストスーツの試着会も開催され、参加者は実際にアシストスーツを着用し、使用感を体験されました。

新規就農者養成のため『農業研修講座』を開催しています

現在、本市農家は高齢化が進み、将来の農業の担い手の確保が急務となっております。

農業の担い手不足は、食糧の安定供給が困難になるだけではなく、遊休農地の増加により、有害鳥獣が都市部に進出してくる恐れがあります。地域に様々な問題をもたらします。一方で、農地をもたない都市住民の間では、定年退職を迎えた60代を中心に「農業に参入したい」というニーズが見受けられます。

そこで、市では、新規就農を考えている方を対象に「農業研修講座」を平成18年度から毎年開催し、

農業の担い手確保に努めています。なお、これまで講座修了生167名のうち、52名が「あすかてくるで河内長野店」や「アグリかわちながの」等へ農産物を出荷されています。

研修講座の内容は、大阪府・JA・農林課の職員による「作付計画」、「肥料の種類と成分」等の講義と、「定植」、「施肥・農薬散布」等の現地実習を合わせて約10回、数カ月にかけて開催され、令和5年度は11名が受講されました。



令和5年度 農業研修講座の様子

“五風十雨”

好きな物
作 協坂朝香

農業委員会大会



昨年10月25日、大阪府内の農業委員会委員約700名が一堂に会した農業委員会大会が大阪国際交流センターで開催され、本市農業委員会委員15名が参加しました。

第1部では、大阪府農業会議の中谷清会長の主催者挨拶の後、農業委員会委員永年在任者表彰、「なにわ農業賞」の表彰が行われました。

その後、大阪府農業会議鈴木成専務理事から「最近の農業情勢と農業委員会活動の課題について」の経過報告がありました。第2部では、京都大学大学院工学研究科教授 藤井聡氏による「食料安全保障と農業委員会

への期待」についての講演が行われ、諸外国と比べた我が国の農業者支援策と食料自給率の状況や、今後の地域計画に基づく農地利用最適化に関する講演に参加者は熱心に耳を傾けていました。



講演する藤井聡氏



農業委員会大会の様子

特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」 の駆除にご協力ください

特定外来生物に指定されているクビアカツヤカミキリは、繁殖力が非常に強く、幼虫が桜をはじめモモやスモモ、ウメなどのバラ科の樹木を食害し、樹木を枯死させるなど甚大な被害を与える可能性があります。

樹木から大量の木くずが発生している場合(参考①)や成虫(参考②)を発見した場合は、被害拡大防止のために、クビアカツヤカミキリの防除にご協力いただきますようお願いいたします。

参考① 幼虫による樹木の食害



参考② 成虫



- ・成虫発生時期 6～8月
- ・体長 25～50mm
- ・大部分が光沢のある黒色、前胸背板(クビ)が赤色
- ・生涯産卵数 300～1,000個

被害を与える主な樹木種

モモ・スモモ・ウメ・桜

クビアカツヤカミキリの防除方法と防除実施時期の目安

クビアカツヤカミキリ防除カレンダー											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
被害樹木伐採											被害樹木伐採
			穿孔注入型農薬の使用※1								
						農薬散布※2					
						樹木にネット等の巻き付け					
						成虫の捕殺					

※1 樹木内の幼虫駆除を目的とした農薬

主な製品 ロビンフット、キンチョールE等

※2 産卵目的に飛来した成虫の駆除を目的とした散布用農薬

主な製品 モスピラン顆粒水溶剤、アクタラ顆粒水溶剤等

クビアカツヤカミキリの防除方法については、QRコードからご確認ください。
「モモ・ウメにおけるクビアカツヤカミキリ防除マニュアル」
(大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター作成)

